



Publishing house: 2-19-32Moriyama Kanazawa  
JodoShinsyu Jhokoji Phone&Fax076-252-4922  
www.jhokoji.net/ info@jhokoji.net 2023.07.01

## 正しい問いを立てる

鈴木大拙館館長 木村 宣彰

皆さん、こんにちは。今ほど懇なり肉となつて、今日ある。

るな紹介を頂いて、何かこそばゆい感じがしております。今は、よぼよぼの高齢者ですが(笑)気持ちは元気にやっております。

### 講

浄光寺様に長い間ご縁を頂いて 毎年このお太子さんの御講とい本当に感謝しています。何を感謝しているかという、毎回、こちらの浄光寺様のお太子さんにご縁を頂くよね、毎回教えられることがある。本当にありがたいことだと思つて感謝致しております。十数回ということは十何個かの新しい発見があり、教えられる。それは私の血と

すけれど、これは「講会」といいます。これは聖徳太子様が亡くなつて間もない時代からすでに始まつている。先程も懇ろなお勤めがあつて、そして今話をさせて頂いているのですが、お経を誦読、拝聴して色々教えられる。こういうことを講

会という。

日本で最初にそういうものが行われたのはお太子様が亡くなられて、二、三十年経つた頃だつたと思えます。お太子様は「篤く三宝を敬え」ところおっしゃっていますね。それから「仏法興隆の詔」を發布された。仏教が大事だと。そうしてしばらくして齋明天皇の時に講会が始まつた訳です。講会というのは今日のように御経を誦読して、その意味の講義を聞いてと、そういう集まりです。

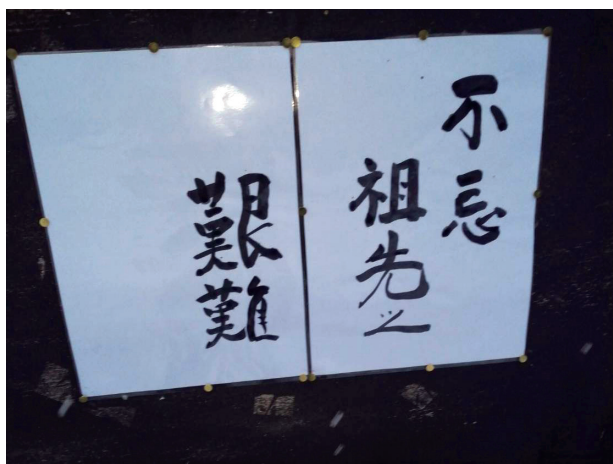
この齋明天皇というのは女性、女帝です。宮中で御経の講義をなさつている。「仁王般若会」という講会。仁王というのは立派な王様ということ。立派な王様でないと立派な政治は出来ない。政治の指導者が間違つた事をするとすべての人々が苦しむ訳ですよ。だから『仁王般若経』という經典を誦読してその講義をみんなに聞いてもらう。天皇がお坊さんを百人集めて、講義を開く。百人のお坊さんを集めて、講義するということはそれは大変なこと。おそらく天皇しかできません

んよ。これは尊い事だからと徐々に広まつて、東大寺や法隆寺など色んなお寺でもそれを行うようになり、やがて全国のお寺に広まつた。

真宗では殊に「御講」というものを大事にしているでしょう。「報恩講」、「太子講」、色んな講がある。その大本はこの齋明天皇が行つた「仁王般若会」というのが最初。西暦でいうと660年。それから日本ではずっと講というものが続いている。皆さんも、お経の誦読を聞いて色々教えられたり、考えさせられたり。みんな聖徳太子様の教えをいわば実践しているようなものですね。

今日、浄光寺様の山門の所に「不忘祖先之艱難」と書いてある。天気も良かったので私はしばらく立ち止まって見ていた。なるほど、普段忘れていた。聖徳太子様が亡くなつて1400年でしょう。その間ずっと仏法を伝えて下さつた先祖の方々のご苦労、そういうことを忘れてはいけないということが浄光寺様の門の所に書いてあった。なる

ほど、こういうことが書いてない  
と忘れてしまう。忘れてしまうま  
は  
い  
か  
な  
く  
も  
思  
い  
出  
し  
ま  
し  
な  
い  
。思  
い  
出  
し  
て  
そ  
う  
い  
う  
こ  
と  
に  
思  
い  
を  
寄  
せ  
る  
と  
い  
う  
こ  
と  
が  
人  
間  
と  
し  
て  
と  
も  
大  
事  
な  
こ  
と  
だ  
と  
思  
い  
ま  
す  
。聖  
徳  
太  
子  
様  
の  
恩  
徳  
も  
忘  
れ  
て  
は  
い  
け  
な  
い  
し、先  
祖  
の  
方  
々  
の  
艱  
難、御  
苦  
勞  
も  
忘  
れ  
て  
は  
い  
け  
な  
い  
。そ  
の  
こ  
と  
に  
気  
づ  
く  
と  
い  
う  
の  
が  
今  
日  
生  
き  
て  
い  
る  
私  
達  
に  
大  
切  
な  
事  
だ  
と  
思  
っ  
て  
お  
り  
ま  
す  
。



### 法句經のことば

今、ウクライナの様子が毎日映  
りますよ。私は21世紀になつてこ  
んな争いが起こるなんて思わなかつ  
た。アメリカの大きなビルに飛行機  
が飛び込んだというような、ああい  
うテロが起こったとしても、国と国  
との争い、紛争や戦争が起こるは  
ずがない、そういう風に思っていた  
のですが起こった。テレビのニュー  
スにその様子が映ると気分が沈んで  
陰鬱になつて、これがずっと続いた  
らノイローゼになつて頭がおかしく  
なつていくのではないかと思つてし  
まいます。あんなに人がいるところ  
を攻撃してなんで止められないのか  
という思いがずっと募っている。

でもふつと考えた。今ロシアの  
プーチンさんがウクライナを攻撃な  
さつていられるけれど、日本も他人事  
ではない。昭和20年に戦争が終わりま  
しましたが、その15年間の戦争の発端  
は昭和6年の満州事変です。日本の  
関東軍はわずか4日間で満州を占  
領した。アメリカの新聞記者のエド  
ガー・スノーがその事を報告してい

る。鬼ごつこの様に占領してしまつ  
た。わずか4日間で満州を南の方へ  
寄せて、その時の関東軍が満州にい  
る日本人達を守る為だという理由  
で戦争が始まった。大體戦争とい  
うのは何かを守る為に始まる。今ロシ  
アのプーチンさんもウクライナの東  
の方にいるロシア語を話す人達を守  
る為だとおっしゃっていますよね。  
だいたい何かを守るといふ口実で戦  
争が始まる。日本は昔の事を忘れて  
しまつてい

ウクライナの中にもロシアに親し  
みを持つ人々と、アメリカやヨー  
ロッパの方に親しみを持つ人々と  
色々いらっしゃる訳ですよ。ヨー  
ロッパとロシアの中間にありますか  
らね。2014年に今までロシアの  
方が良いなど言っていた政権が潰れ  
た。そうしたら今度はヨーロッパが  
良いなどという政権が現れた。そして  
2014年にプーチンがロシアに親  
しみを持っている人達の為にクリミ  
ア半島をロシアに併合してしまつ  
た。それはちょうど日本軍が満州で  
やつたような、同じような事です。  
毎日テレビであの悲惨な状況を見

て私はとにかく一刻も早く停戦して  
欲しいと願っているのですけど、一  
体どうしたらいいのかということ  
を思い悩んでいる訳です。そのこと  
に思いを寄せることがとても大事だ  
と、そういうことを今日の午前中  
いろいろ思つていた。

お釈迦様が語られた説教、説法  
を私たちは漢文のお経を読んでい  
る。その一番古いものがインドの言  
葉で残つていて、それが『ダンマパ  
ダ』という經典で、それを翻訳した  
ものを『法句經』という。その第五  
句にこういう言葉がある。「実にこ  
の世においては、怨みに報いるに、  
怨みを以てしたならば、ついに怨み  
の息むことがない。怨みをすててこ  
そ息む。これは永遠の真理である」  
と。お釈迦様が2500年前にこう  
おっしゃつた。おそらくプーチンさ  
んは怨みを持ったのです。どうい  
う怨みか。今までの親ロシア派の政  
権が人々の反対で倒れ、そして今度  
はヨーロッパに親しみを持つ政権が  
できた。その年にプーチンさんはウ  
クラインのクリミア半島を併合した。  
それからずっと両方の人達の色々な

諍いがあった、それからその後の選挙で今の大統領がその諍いを止める事を公約にして大統領に立候補して当選した。2019年に。

今までずっとロシアと親しかったのに、今の大統領になってからヨーロッパ寄りだ。NATOに入りたいとかEUに入りたいと言っている。プーチンさんは、そういう事が嬉しくないし、必ず怒みの感情があると思うのですよ。それが今日まで8年間くらい続いている訳ですよ。

それはすでにお釈迦様が言うように、怒み以て怒みに応える、こんな事をしていたらいつまで経っても終わらない。この言葉の最後に「これは永遠の真理である」と。時代が変わろうが、国が変わろうが、どこへ行ってもこのとおりだ。こうお釈迦様がおっしゃっている。もしプーチンさんやみんなが、「不忘祖先之艱難<sup>かんなん</sup>」、お先祖のご苦勞を忘れてはいけない、なるほどと膝を叩きたくなるこういう思いが起こればいいが、戦争はダメだとなかなかそこにいかないのが悲しいです。

## 十七条憲法のことば

これと同じようなことを聖徳太子様も憲法でおっしゃっていますよね。十四条に「我既に人を嫉む<sup>うらや</sup>ときは、人また我を嫉む。嫉み妬む<sup>ねた</sup>の患<sup>うれ</sup>え、その極まりを知らず」と。どこまでいったらそれが終わるのかそれはわかりませんよ。あの時代にもいろんな部族の諍いがあった訳ですから、そういうものに対して憲法の十四条に書いて頂いた。

これは十七条憲法の最後の所ですが「十七<sup>とほあまりなつ</sup>に曰く、夫れ事は独り断むべからず<sup>さだ</sup>」。一人で勝手に決めては駄目ですよと。「必ず衆と論<sup>もろもろ</sup>うべし」。必ずみんなと相談しなさい。俺はどうしてもウクライナを併合するのだ、と考えるのではなく、みんなと相談しなさいと。お太子様は1400年前に説いて下さっています。「少き事は是れ軽し、必ずしも衆とすべからず」、でも小さな事は相談しなくても良い。お茶を飲むとか飲まないとかそういうことで会議を開かなくても良いけれど、大きな事柄は違う。「ただ大きな事を論<sup>あげつち</sup>うに速<sup>おそ</sup>

びては」、逮捕の速は「およぶ」。戦争するとかしないとか「もし失り有<sup>あやま</sup>ることを疑う」、これやったら大変な事になるのではないかと、大きな過失を犯すのではないかという事を考えなさいとお太子様はおっしゃっています。この21世紀では戦争より大きな事柄はないと思います。国にとつて大事は「夫れ事は独り断むべからず<sup>さだ</sup>」必ずみんなと相談しなさいと。

私はよくわかりませんが、ニューズで見ている限りでは、最高責任者であるロシアの大統領が自分でお決めたようになってるように私には見えるのだけど、そういう事はダメですよとお太子さんは教えて下さっています。「もし失り有<sup>あやま</sup>ることを疑う。かれ、衆と相弁<sup>あいわきま</sup>うるときは、辞す<sup>こと</sup>なわち理を得<sup>ことわり</sup>」、辞<sup>こと</sup>というの言葉です。物事の説明。プーチンさんは東の方にいる親ロシアの人達を守るのだ、守る為に特別な軍事を使うのだ、あるいはロシア語を話す人達を守る、あるいはロシア語を話さない人達を守る、ということをおっしゃいましたよ。それが口実です。なかなか停戦の話し合いさえ進まないというのはとても悲しいし残念なことだと思います。

このお太子さんの憲法を読んで頂きたい。

ウクライナはもともとソビエト連邦の国ですからね。ソ連が崩壊した1999年ですかね、独立して一つの国になったのでしょうか。もともとこっちにいたのだからこっちへ来いよという思いがやっぱりあるかもしれません。ソ連が崩壊した後、旧ロシアのいくつかの国は独立しています。私はハンガリーへ行ったことがあります。ハンガリーは非常に日本に親しみを持っていて国です。日本ではちょうど政権交代が行われていた頃でそういう話をしていたら、ハンガリーの人は、いや我々は体制の政治体制からEUのヨーロッパの体制に代わったのだというようなことをおっしゃっていました。

彼らが私に話しかけてきて、日本で一番有名な人は鈴木さんだ、と言ってきたから僕は鈴木大拙さんかと思っただけど、違う。スズキの自動車の方です。スズキの自動車の会長さんがいますよね、あの鈴木さんは良い人だと。体制が変わる前からハ

ンガリーに来て、故障しない良い車を作ってくれた。ロシア製の車は乗り心地が悪くてダメだ。日本の鈴木さんはまだソ連邦の時代からここに来て良い車を作ってくれた。実際に駐車場に行くとスズキの車がたくさんある。トヨタや日産の車もあるけれどスズキの車がたくさんある。ハンガリーがソ連と離れる前から車を作ってくれた、ロシア製はダメだ。

乗り心地は悪いし故障はするしと、私にリップサービスなのか盛んに話しかけてきた。

ハンガリーはソ連邦が崩壊するまではソ連の中にいた訳だけど、独立して今は政治の体制も変わった。ウクライナもそうだけど、プーチン大統領はそういう動きは嬉しくない。

あるいは怨みに思っているのかもしれない。でもそんな怨みに応えていてもいつまで経っても終わりませんよと、お釈迦様がダンマパダの中で説いて下さっている。

太平洋戦争が終わって、サンフランシスコで対日講和条約を結ぶ。そして日本と戦争した国々はみんな賠償請求をしてくる。日本はひどい

事をしたと。その時にサンフランシスコの対日交渉中にスリランカのセイロンの代表がこの言葉を述べたのですよ。怨みがあるからといって賠償請求をやっていたらこれは果てしなく続くぞ。だから我々は日本に賠償を請求しません。この怨みはここで断ち切るのだ、ということをやサンフランシスコ講和条約の中でセイロンの代表の方が言った。

セイロンというのはスリランカの島ですけどね、敬虔な仏教徒がたくさんいる所で私も行ったことがあります。セイロンにはお寺がいくつもあってお寺に入る時は靴を脱いで入る。参道からずつと靴を脱ぐ。セイロンにケラニア大学という大学がありますけど、そこに聖徳太子の十七条憲法を中村元という先生が英語に直したものがあって、それを全ての学生に配ったのです。『真宗聖典』の中に十七条の憲法があるので大谷大学の学生は皆持っています。日本では他に配っている大学はないかもし

れませんが、スリランカのケラニア大学では太子の憲法をみんな読んでいます。これは素晴らしいなど。やっ

ぱり我々ももう一度お太子さんの教えを聞き直すことが大事だなと。今、ウクライナのことであって、ダンマパダのこのお言葉がとても大事だ。皆さんもし機会があれば読んで頂ければ嬉しく思います。相手が怨みを持つと必ずこちらも持つ、それに対してその時にどうリセットするのかが大事です。

ダンマパダの尊いお言葉は続いて第五百五句に「戦場において百万人に勝つよりも、唯だ一つの自己に克つ者こそ、実に最上の勝者である」とある。自分自身の憎たらしい、負かしてやろう、という気持ちに打ち克つ者こそが実にこの上ない最上の勝者であるとお釈迦様が当時のインドの古いお言葉でお説きになったのです。だからダンマパダはパーリ語というスリランカやその辺の人達が使っていた古い言葉で伝わっている。尊い教えだから、それがまた中国に伝わって漢字に翻訳されている。そして20世紀、サンフランシスコ講和条約の時にスリランカの代表

がその言葉をみんなの前で述べた。

だから我々は日本に請求しないと。日本に対しては色んな思いがあったのだと思いますよ、戦争したのだから。でもこの怨みを増幅すれば果てしなく続いていくのだということを見つけた。今、ウクライナのことを見ていると何とかこの言葉を活かさなければと思う。

そしてお太子さんもまた同じようなことを憲法の十四条や十五条におっしゃっていますよね。例えば十四条には、「我既に人を嫉むときは、人また我を嫉む」と。我というのはエゴです。俺が正しいのだ。俺の思うようにやりたい、という気持ち。対応すれば必ず相手も私が私かという気持ちをもって向かってくる。これは、果てしないことになる。

先程言ったように「嫉み妬むの患え、その極まりを知らず」、だんだん増幅されていく。今、誰か一人の指導者が戦争を始めたのだとしたら、その人が止めるということが一番止め易いことだと思います。他から言うて聞いてくれないとなればその人に気づいて頂くというしかない。

数日前、私の所に電話がかかって

きて、ロシアの大統領に仏教を伝えなければどうにもならないのではないのでしょうか、どうやって伝えたらいいですかと相談を受けました。私はプーチンさんとはウラジーミルと呼び合う仲でもないし、電話も出来ないから何もできないけど、その人の気持ちはよく分かる。こういう事を分かって頂いて戦争を止めて頂くのが人類にとつてとても大切な事だと思います。2500年前のお釈迦様も、1400年前のお太子さんもそういう事を私たちに伝えて下さっている。これは永遠の真理だと思えます。そして今日のようなお太子さんの講会、お講を通してみんなが同じ気持ちを持つということが大切。戦争を直接止めることは出来ないけれど、みんなの思いが広がっていくことで止める事が出来るのではないかと思うのです。

## 大拙のことは

昭和37年、当時ソ連とアメリカが危険な状態になった。その時に鈴

木大拙さんはオープンレター、公開書簡をケネディ大統領閣下、フルシチョフ首相閣下にお渡しした。大拙先生はあのキューバ危機を何とかしようとした。ソ連がアメリカのすぐ目の前のキューバでミサイル基地を作った。今から60年ほど前、まさに核戦争が起きるのではないかと皆

危険感があつた。皆さんはお若いからご存知ないかもしれませんが、あの頃にこんな事があつた。私もかすかに記憶している。その時に大拙先生はアメリカとソ連、両国に何とかそれを伝えたいと思つてオープンレターをお書きになった。公開書簡だから私も読んでいますが、そこに色んなことが書いてあります。我々人間の人生の意義とはどういうものか。何が人間の尊厳なのか。そのことをよく考えなければならぬということをおっしゃった。天上天下唯我独尊、何で人間が尊いといわれているのか。それを見出すこと。それが大事なのだ。この世界は私達一人一人が、この真理を悟り、人間としての自己の意義の発見に努めなければならぬ。この娑婆は争いや諍

いをする場ではなく人生の修行をする場ですよということを米ソの代表に伝えていた。

修行の場ですよ。そしていま最も肝要な問題は、我々はどこに位置しているのか、どこに立っているのかということを考えなければならぬ。今や我々は物質的な力が多方面に発揮される。そして核戦争の危機に直面している。これは愚の骨頂ではないか。我々は現在の世界における人間の尊厳を軽視しているのではないか。そしてその後、夕べ見た夢のことを書いていた。私は不思議な夢をみた。天井から大蛇が現れて絞め付けられて体がコチコチになって動けなくなった。そんな夢を見た。とアメリカのケネディ大統領とソ連のフルシチョフ首相への手紙に書いている。

私も毎日、毎日、ニュースで建物が壊れて、子どもが亡くなり、亡くなった人が埋められた穴を見ると、一刻も早くこれは止めないと、という気持ちになる。大拙先生は夕べ大蛇に絞め殺される様な夢を見た。いかに真剣にそのことについて考え

ておられるか。私はぐっすり寝てしまふので、まだ悩み様が足りないのかと、いたく忸怩たる思いを持っていてですけど、早く終わって欲しいという気持ちは変わらない。

## 神の国？

今はロシアがウクライナに侵攻、攻め込んでいくわけでしょう。侵犯している。日本は島国だからあんまりないけど、ウクライナはずっと陸続きだから、侵犯ということが起こる。でも日本もありましたよね、鎌倉時代に。弘安の役、文永の役。元の国、蒙古ですよ。フビライハン。蒙古が日本へ来た。でも嵐が起きて失敗して帰って行きました。今、『鎌倉殿の13人』<sup>1</sup>という大河ドラマがやっていますけど、時宗が執権の時ですよ。あれは日本にしてみれば唯一の侵攻ですよ。外国が攻めてきた。あのおおもとは元の国が大きな大帝国を作つてヨーロッパまで行っているわけですが、元の国が日本に貢ぎ物を持つてこいと言つ

てきたけど、鎌倉幕府が断つたら舟に乗ってばーつとやってきた。学校で教わるのは弘安の役は西暦何年ですか？とかその時の執権はだれですか？とかそういう事ばかりで、もつともつと考えるべき事は沢山あると思います。二回目の弘安の役は、14万人来たのですよ。元の国と高句麗の兵隊を集めて、船が4千隻。その兵隊達は何を持っていったか。槍とか武器は当然だけど、畑や田んぼを耕す鋤、要するに農機具を持っている。14万人もの兵士が来て、あつという間に日本を占領出来るはずだと。占領したら植民地にして農業をする為の鋤とか鋤とかを持って来た。だから絶対に勝てると思つてやって来ている。でもご存知のように嵐が吹いて沖で全部舟が沈んでしまった。14万人来て助かったのはわずか3人。日本としては鎌倉幕府が大変に緊張してそれに対応したと思ふけれど、台風のために助かった。でも向こうは14万人死んだ。

日本の側だけを考えていたら良かったな、となるけれど、少し別の考え方をすれば、その時に神風が吹

いたことで日本は神国だ、というところが吹聴される。何もしないで、神風が吹いて日本が勝つたのだ、そう思ったという事は良い事か悪い事か、なかなか難しい。良いに悪いはついてまわる。そのことは良かったかもしれないが、神風が吹かなかつたら、太平洋戦争は起こらなかつたかもしれない。310万人の人が亡くなる必要がなかつたかもしれない。もつと謙虚に話し合いをするようになったかもしれない。どれが良いとか悪いとか判断は出来ませんけれど、そういう事も考えられるかもしれない。

なぜそういう事を言うかといったら、北國新聞社から『北國文華』という雑誌が出ていて、安宅<sup>あたか</sup>弥吉<sup>やきち</sup>さんという、金石の方の事を書かせて頂いた。そして最近の号にまた安宅弥吉さんが作られた神戸の甲南高等女学校の事が書いてあった。その学校で勉強して卒業したのが、今99歳の佐藤愛子さん。ご存知ですよ。佐藤愛子さんは金石の安宅さんが神戸で作られた甲南高等女学高の卒業生です。戦争の最中にずっとそこで勉

強していたのだけど、この間、佐藤愛子さんがお書きになった文章が『北國文華』に掲載されていた。「私は、日本は神国で、戦争に絶対に負けるはずがないと思つていたので楽しい学校生活を送っていた」と書いてある。佐藤愛子さんも日本が戦争に負けるなんてちつとも思わなかつたというものだから、私はそれを読んで、鎌倉時代からずっとこの20世紀のその時まで日本は特別だ、神国だ、戦争が起こつたら神風が吹いて助けてくれるのだ、という考えを持っていったのだということにびっくりしました。

た。あの時二度に渡つて、元の国から沢山の兵隊さんが来たけれど、両方とも台風、暴風で上陸出来なかつた。これが二回もとなつたら奇跡みたいなものですよ。それはやっぱり日本が特別な国だと思えますよ。そこからずっと太平洋戦争まで日本は特別な国だとみんな思い込んで、310万人の人が亡くなつてしまつた。大いに反省しなければならぬという思いを持っているのです。今、毎日毎日ウクライナのニュースばかり見ているから春なのにウキウキしないのですよ。何とか早く終わって欲しい。



### 正しい問いを立てる

今日浄光寺様のお太子さんに寄せて頂いて、ある一つの事に気づいた。それは何かというと、私たちは小学校、中学校、高校、大学とずっと答えばかりを求めているということ。私も大学にいる時は生徒達に問題を出して、これを答えなさい、そういうことばかりやっていた。しかし、

もつと大事なことは正しい問いを立てるといふこと。ところがそういうことよりも早く答えを引き出すことに一生懸命。先生が問いを出すと、生徒は、はい！と早く答えを出した方が賢い子。もし自分の子供が先生から質問されて、いつまで経っても答えられなかったら、親はイライラすると思いますよ。例えば、りんご3つとみかん2つと足したら、いくつ？と聞いたたら、賢い子は5つとすぐ答える。いつまで経っても答えなかったら、うちの子はどうしたんやろうと、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが心配すると思う。しかし、それが本当に賢いかは別問題だと思う。

りんごとみかんを合わせることが出来るのか、と考えている子がいるとすれば、これはいつまででも手を上げれないですよ。りんごとみかんを足していっしょにすることが出来るのだろうか、うーんと考えて。でも親ならずぐ5と答えて欲しいですよ。正しい答えは唯一の正当、常に一つしかない。入学試験で、答えが二つある問題を作った、これは

ミス。答えが出ないのは論外だけど。予備校の先生達がみんな見ていて、これはミスではありませんかと指摘してくる。新聞に入試でミスがありましたと載る。唯一の答えしかでない様なものを作る訳です。蒙古が攻めてきたのは何年ですか？フランス革命は何年ですか？これは唯一の答えです。でもなぜフランスに革命が起ったのか、という事の方が大事。えっ？みかんとりんごとを一緒にできる？と深く考える子が素晴らしい子かもしれない。ただ答えを求めるのではなく、正しい問いを立てられるかどうか、これが大切な事だと思います。

ロシアとウクライナの戦争。侵攻を決定した時はどんな考えだったか。ロシアとウクライナは元々兄弟の様な仲だった。どのように仲良くしていくか、という問いを立てられたら答えはまた違ってくると思いますが。人間というのはみんな大きな繋がりの中にある。共に生きていくにはどうすれば良いのかという問いを立てたら、答えはまた違ってくる。

その方法も違ってくる。正しい問いの中に答えも方法も含まれている。ところがそういうことを考えないで、さあ正しい答えを早く見つけよう、見つけようとするのが習慣になるといけない。先程言ったように、みかんとりんごとを一緒にできるかという話や、ハンガリーでの鈴木自動車の会長の話ではないですけど、時速100キロの車と、時速50キロの車とどっちが良いか？もちろん速い方が良いという人が多いけれど、時速100キロの車は10年で壊れる、壊れない、これだったらどっちが良いかわからなくなってくる。だから今、正しい問いを考えることがいかに大事か。正しい答えというのは自分のエゴから離れなければいけない。普遍的な問いでなければならぬ。それを現在の状況の中でどう活かすかということが大事な事です。だから今一度、私達は正しい問いを立てるといふ事の大切さを考えなければならぬ。今日、一番最初に私は浄光寺さんのお太子さんで気づかせて頂いたのはその事です。もし、その

### 三経義疏のことは

お太子さんのお書きになったもので『三経義疏』というものがあ。『法華経』の八巻、『維摩経』のものを三巻、『勝鬘経』のものを一巻、太子が注釈なさった。その中の『法華経義疏』を見た時、私は何ともいえない感動を覚えました。これは日本に残っている筆で書かれた一番古い書物。その『三経義疏』を読んでいくと、ほぼ同じような言葉で出てくる。あつ、これさつきも出てきたな、と。

今日お渡ししたプリントに「経とは、法と訓じ、常と訓ず。聖人の教は、復た時移りて俗を易うると雖も、その是非を改むること能わざるが故に常と云い、亦た物の為に規則たるが故に法と称す」(『勝鬘経義疏』)と。娑婆が代わると風俗や物の見方が変わってきます。でも、御経の内容

を変えない必要はない。これは普遍の真理だ。これは聖徳太子様の言葉です。だから御経のことを常といい、これは永遠に変わらぬ。聖人というのには仏様。物というのには人物、人間の為に規則たるが故に法とする。これ時代が変わるうが、アメリカであるうがロシアであるうが、日本であるうが、これ人としてはみんな共通の事だ。それが法だ。

法というのは「のり」でしょう。「のり」というのは漢字で書くと憲法の「憲」も、法則の「法」も、規則の「規」も、規範の「範」も、経典の「典」も、全部「のり」ですよ。憲法といったら「憲」も「法」も「のり」。規則も「規」も「則」も「のり」。経典も「経」も「典」も「のり」。「のり」と「のり」が続いている。「のり」とは何か。則のつとるべき、守るべき事柄、掟。それに背くことの無いようにしなさいということ。今日、読誦された御経、経典の中に説かれているのは、難しい事があるけれど、これが人として行すべき道。

次は『法華経義疏』第一だけど、ほぼ同じ。「経の義は、法と訓じ、常

と訓ず。聖人の教は、復た時移りて俗を改むる雖も、前主後賢その是非を改むること能わざるが故に常と称し、物の為に規則たるが故に法と云う」

聖徳太子様が、人間はどう生きべきなのかという正しい問いを立てられた時に、示して頂いているのは御経だとおっしゃっておる。例えばその中の一つが先ほど言った法句經の中の「怨みに報いるに怨みを以つてしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」。同じ言葉が『三経義疏』に全部載っている。これは感動すべきことです。

親鸞聖人は、聖徳太子様のお住まいだったから京都の六角堂に百日籠られたのでしよう。私はどう生きるのか、人間としてどうするのかという問いについて考え続けられた。その時に最終的には法然上人の所に行かれて、お念仏の教えに出遇われたのでしよう。

どうしたら商売儲けられるとか、どうしたら楽に生きられるかと、そ

ういう事も大事だけれども、その中の一番の根本は正しい問いを持つこと。今、ウクライナには怨みがある、今の大統領を何とかやっつけてやりたい、そういう気持ちを持つたら、それは正しい問いではないと思います。やはりみんな繋がって同じ大きないのちの中で生かされているのだから、共に生きるにはどうすればいいのか、という問いを持つのが正しい問いだと思います。そうすれば対話をするなど色々な方法が見つかる。でも今の様にいかに勝つかということだけを考えればミサイルを持って、戦車を持って、となる。方法も答えもみんな間違ってくる。そうすると挙句の果てにすべての人が苦しむことになる。

親鸞聖人が、六角堂に百日籠って、そして法然上人の元へ行つたとか、恵信尼と結婚を決意されたとか、そういうことも大切かもしれないが、聖人の問いは何であつたかということを考えてなければならぬと思う。実は親鸞聖人は19歳の時に聖徳太子の磯しな長の御廟に三日三晩参籠なさつている。その時に聖徳太子からお夢

のお告げがあつたのですよ。「善く信ぜよ、善く信ぜよ、真の菩薩を」と。間違つた教えではなく、本当の菩薩様の教えを聞きなさい。正しい問いを立てたら、正しい答えも得られる。そして正しい生き方、正しい方法も自ずからついてくる。だから問いの中にすでに正しい答えが含まれているのだと思います。本日はありがとうございます。

《編集後記》

◇本文は令和四年三月二十一日、浄光寺「お太子さん」の法話録であります。海まことに勝手ながら紙片の都合上、割愛、編集させていただきました。

\*行事のご案内\*

「追弔会」

日・令和五年八月十三日(日)  
時・午後十時

「きこまいけ」

毎月・二十八日  
時・午後二時  
※十二月、二月は休講